

第6学年 外国語科学習指導案

場 所 6年3組教室

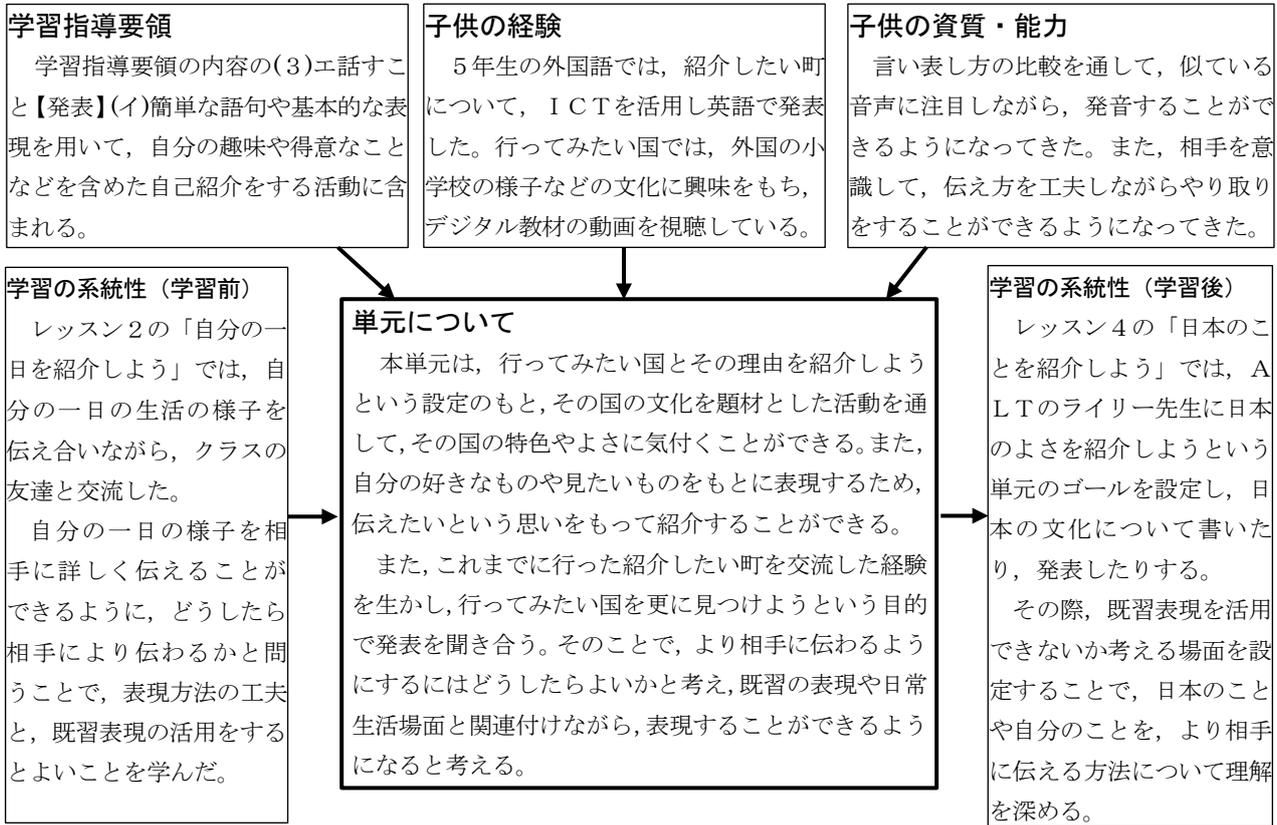
児 童 男19名 女17名 計36名

指 導 者 中 坂 将 晴

1 単元名

Lesson 3 Where do you want to go? 行ってみたい国ワールドマップを作ろう！

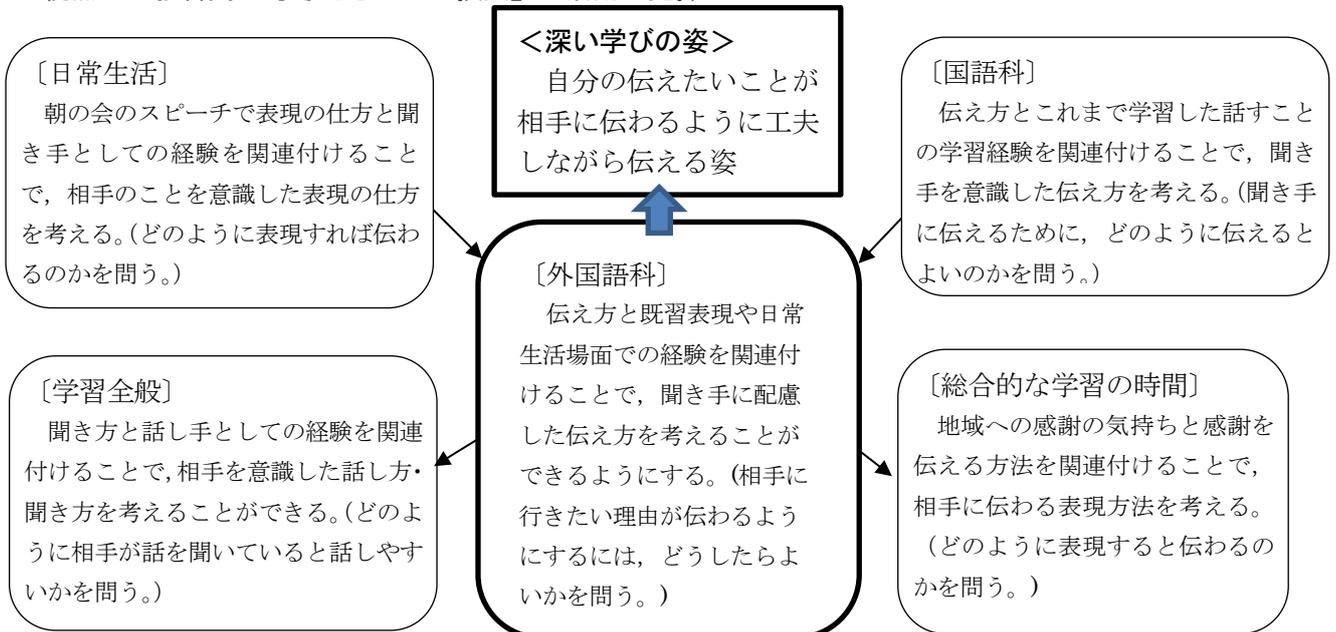
2 単元の指導構想



3 指導にあたって

そこで、自分の気持ちや考えを伝え合う子供を育むために、以下のような手立てをとる。

視点1 教科間の『考えるための技法』の活用・発揮



視点2 深い学びの実現に向かう単元構成

- ・ 自分の行ってみたい国に関心を持ち、世界の国々やその国の文化についてもっと知りたいという思いをもつことができるように、単元の導入で、先生たちの行ってみたい国をマップや写真などの資料を使いながら、紹介する。その際、既習の表現を用いながら英語で紹介し、皆もその国に行ってみたいかと問う。また、クラスの友達やALTの先生にも行ってもらいたいという思いをもって学習できるように、行きたい国とその理由を紹介し合った後、単元の最後に自分が行ってみたい国を一つ選択して、世界地図にシールを貼り交流する場を設定する。
- ・ 伝えたい表現を自信をもって発声することができるように、単元のゴールで必要な表現である国の名前や、Where do you want to go? I want to go to ~.などの表現を、スモールステップで単元に位置付ける。また、音声を通して繰り返し聞くことでインプットし、十分に慣れ親しんだ後でインプットしたことを話したり、書いたりするアウトプットを促す。
- ・ 自分の思いを伝えるために、伝える内容や表現方法を考えて、相手に伝えようとするように、紹介したい国について、どんなことを伝えたいか、どのように伝えたいか考える場面を位置付ける。

視点3 単位時間の考える活動の充実

- ・ 子供の考えから課題を設定し、子供が主体的に、目的をもって学習することができるように、Small Talk での子供とのやり取りや前時の振り返りの中から、本時につながる課題を導入で紹介したり、表現のために必要な語彙は何かを問うたりする。
- ・ 既習表現や生活経験をもとに考えながら、自分の思いを伝えることができるように、行ってみたい国についてやりとりしたり、発表したりする際に、「伝えたいことが伝えられているか。」「どうすれば相手に伝わるか」を問う。
- ・ 伝えるための表現の工夫を自覚したり、相手に伝わった喜びや楽しさを感じ、主体的にコミュニケーションを図ろうとしたりすることができるように、「できるようになったこと」や「次にやりたいこと」を視点に振り返りを行う。

4 単元の指導計画

(1) 目標

- ・ 「～したい。」の言い方を理解し、行ってみたい国とその理由について紹介することができる。また、小文字を4線上に書き写すことができる。 **【知識及び技能】**
- ・ 行ってみたい国やその理由について、相手に伝わるように、表現の工夫や既習事項を生かしながら、伝えることができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- ・ 他者に配慮しながら、行ってみたい国とその理由を発表しようとする。 **【学びに向かう力、人間性等】**

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 行きたい国の名前の言い方を理解したり、Do you want to ~?やI want to ~.などの表現を用いてやりとりしたりしている。 ② 活字体の小文字を、高さや形の違いに気をつけて書く技能を身に付けている。	① 行ってみたい国を紹介するために、既習事項(I like~. I can~. It's famous for~.)や日常生活場面(確認、問いかけ、繰り返しなど)を関連付けながら、相手に伝わるように伝えている。	① 行ってみたい国やしたいことを紹介するために、学習を振り返り、次の課題を明確にして取り組んでいる。 ② 行ってみたい国やしたいことが伝わるように、発音を意識したり、表現の工夫を考えたりしながら、粘り強く学習に取り組んでいる。

(3) 指導計画 (6時間)

段階	主な学習活動	指導の手立て	考えるための技法	評価規準 (評価方法)
問題の把握 第一次	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">6年3組行ってみたい国ワールドマップを作ろう。</p> <p>1 先生方の行ってみたい国の紹介を通して、自分の行ってみたい国について考え、学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ぼくもあの国に行ってみてみたいな。 ・ クラスのみんなはどの国に行ってみてみたいのかな。 ・ 他にどんな国があるのか知りたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国に興味関心をもって聞くことができるよう、教師が行ってみたい国を英語で紹介し、自分も行ってみたいかと問う。 ・ クラスみんなの行ってみたい国に関心をもつことができるように、世界地図上の行ってみたい国にシールを貼り交流する。 	関連付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行ってみたい国を紹介するために、学習を振り返り、次の課題を明確にして取り組んでいる。 <p>【態①→発言、観察】</p>
問題の追究 第二次	<p>2 行きたい国をたずねる言い方に慣れ親しむ。(チャンツ、ミッシングゲーム、インタビュー・ビンゴ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラスのみんなの行ってみたい国はどこかな。 <p>3 I want to～.を用いて、行きたい国について尋ねたり、答えたりする。(インタビュー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 相手に理由を伝えるには、どんな表現の仕方があるのかな。 <p>4 行ってみたい国の食べ物や世界遺産などについて調べ、発表メモを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の行ってみたい国についてよく分かる資料はどれかな。 <p>5 ペアで自分の行ってみたい国とその理由を伝える。(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしたら相手によく伝わるかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国名の言い方に慣れ親しむことができるように、チャンツやゲームを通して繰り返しインプットする場を設定する。 ・ ～したいという表現が I want to～.であることに気付くことができるように、「行きたい、食べたい、観たい」という表現の共通点を問う。 ・ 行きたい理由を明確にするために、その国でしたいことは何か問う。 ・ 小文字の特徴に気付き、書くことができるように、書く位置の違いを問う。 ・ 既習や日常生活場面と関連付けながら、聞き手に伝わるように考えながら発表することができるように、聞き手に伝えるための表現の工夫を問う。 	<p>関連付ける</p> <p>比較する</p> <p>関連付ける</p> <p>関連付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行きたい国の名前前の言い方を理解することができる。 <p>【知①→書き込み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Do you want to～?や I want to ～.などの表現を用いてやりとりすることができる。 <p>【技①→発言、観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行ってみたい国やしたいことが伝わるように、発音を意識したり、表現の工夫を考えたりしながら、粘り強く学習に取り組んでいる。 <p>【態②→ふり返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活字体の小文字について、高さや形の違いに気を付けて、書くことができる。【技②→カード】 ・ 理由が相手に伝わるように表現を工夫して発表することができる。 <p>【思①→発表】</p>
まとめ 第三次	<p>6 前時までで交流したことをもとに、デジタルパンフレットを作成して見合う。行ってみたい国にシールを貼り、行ってみたい国ワールドマップを完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流前と比べて、行きたい国が広がったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の学習を振り返り、よい点や課題を明確にすることができるように、「できるようになったこと」や「これからに生かしたいこと」の視点で振り返りを促す。 	関連付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元をふり返り、自分の学習のよかった点や課題点を意識することができる。 <p>【態①→ふり返りカード】</p>

5 本時の指導計画

(1) 目標

行ってみたい国の理由が相手に伝わるように、表現を工夫して発表することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
行ってみたい国の理由が相手に伝わるように、既習表現(I like～. I can～. It's famous for～.)を用いて、表現の仕方を工夫(確認、問いかけ、繰り返しなど)しながら発表している。 [思考・判断・表現]	行ってみたい国の理由を伝えることができるように、既習表現や表現の仕方の工夫についての板書で確認したり、教師の後に続いて真似をしたりするように促す。

(3) 展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料 等
導入 (5分)	1 【Greeting】 2 【small talk】 前時までの表現でのやり取りをする。(チャンツ)	<ul style="list-style-type: none"> 本時の課題につなげ、目的をもって学習できるように、単元のゴールを確認したり、前時の子供の振り返りを紹介したりする。 紹介の仕方を確認することができるように、繰り返し表現に慣れ親しむ場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板 ピクチャーカード
展開 (35分)	3 【Today's Goal】 自分の行きたい国とその理由を紹介し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容が伝わったかを確認められるように、発表を聞いた側の反応の仕方を確認する。 	
	4 【Activity①】 (1)ペアで理由を紹介し合う。 (2)中間振り返りをする。 ・ 行きたい理由は伝えられましたか。 ・ 理由がよく伝わった人はいますか。 (3)自分の伝え方をふり返り、メモを見直す。 5 【Activity②】 (1)ペアを変えて再び、紹介をする。 (2)お互いの発表が終わったら、感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 発表に慣れたり、相手の紹介を聞いて自分に生かしたりすることができるように、ペアを変えて繰り返し紹介し合う場を設ける。 <p>手立て① 既習や日常生活場面と関連付けながら、相手に伝わる表現の仕方を考えることができるように、次のような支援をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行きたい理由を伝えるには、どうすればよいか問う。 これまで学習した表現で使えるものはないかを問う。 よく伝わった人は誰かを問い、そのよさを板書に示す。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の表現の工夫が伝わったか振り返ることができるように、紹介した後に発表内容の感想を伝え合うことを確認する。(相互評価を促す。) 相手に分かるように発表したことを自覚できるように、相手に分かるように発表している子供を価値付ける。 <p>◇ 自分のことを伝えるために、既習表現や日常生活場面を関連付けながら、相手に分かるように発表することができる。【思①→発言・観察】</p>	
まとめ (5分)	6 【Looking back】 ・ 本時の振り返りを書く。	<p>手立て② 伝えるための表現の工夫を自覚し、自分の行きたい国についての理由を伝えるという見通しをもつことができるように、「できるようになったこと」や「次にやりたいこと」を視点に振り返りを促す。</p>	

